



## 海岸プラゴミについて考えるプログラムの企画

うべ環境コミュニティー 浮田 正夫

7月3日に行われた常盤海岸西詰における地域清掃活動の機会を活用させていただき、地元中学生を対象とした上記体験学習を企画しました。そもそも5月26日の山口県環境学習推進センター主催のマイクロプラスチック調査指導者養成講座に参加したのがきっかけで、県内でも有数の海岸ごみの漂着しやすい同海岸で子ども達に体験させたいと思ったことです。道具類の選定、購入や、現場の事前調査などに随分時間を費やしましたが、主催者側との打ち合わせは一度顔合わせただけでした。

当日は、地元の社会教育委員会がすでに西岐波中学校に呼びかけられていたこともあり、常盤中学校を合わせて中学生だけでも約150名、総勢約400名の参加がありました。当日は曇り空気味で、天候には恵まれましたが、中学生40名分のミリプラ収集と、清掃主体の希望者にも、気になったゴミをブルーシート上に取り置きして、皆で考えさせる準備をしましたが、当方の指導陣の打合せ不足と、終了時間の誤解のため、ほとんど当初の成果を得ることが出来ませんでした。

しかし、後日、参加した中学生のアンケート結果を見ると、予想外に大量の様々なゴミを目にし、自ら

清掃してみて、プラスチックごみ問題の大きさを実感した、地域の方々との交流ができたことがよかったとする意見が多く、初回の試みとしては十分成果があったと考えられます。

企画した体験学習については、この失敗体験を反省し、次に活かしたいと思います。一連の事前・事後調査について、13のうべっくるブログ(5903、5911~5927)にまとめていますのでご参照下さい。



Photo by Dr. Koichi Yamamoto



### 2022年度第1回ESD研修会 食育フォーラム

「こころも身体も食べたもので出来ている!？」

- ・日時: 8月20日(土) 14:00~16:00
- ・場所: 宇部市多世代ふれあいセンター3階第3講座室
- 基調リモート講演: 輝きを取り戻す『発達障がい』と呼ばれる子どもたち

講師: 前島由美さん ゆめの森こども園代表/出雲市司会・話題提供: 上級食育指導士/河村千代、児玉純子

申込み: 宇部市まちなか環境学習館(下記へ)  
氏名、電話、対面・Zoomオンラインの別を連絡  
定員50名、申込〆切: 8月12日(金)  
500円資料代(オンラインは免除)

### 特別サロン第1回 弁当の日から食育を考える

- ・日時: 9月17日(土) 14:00~16:00
- ・場所: 宇部市立図書館2階 講座室

講演 弁当の日の実践から学んだこと  
山田耕三(宇部市教委教育支援課)

話題提供 食品廃棄物の現状とごみ  
減量の課題について

浮田正夫(うべ環境コミュニティー)

申込み: 宇部市まちなか環境学習館  
氏名、電話、対面・Zoomオンラインの別を  
連絡 200円資料代(オンラインは免除)

食糧自給率37%ときびしく、食品の値上がり  
りが心配な昨今、健康に直結する身近な食育  
について、いっしょに学び考えましょう。

### 宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 J R宇部線: 「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス: 「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し(近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時~17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 毎週土・日曜日、祝日、年末年始



Home Page



facebook



twitter



NPO 法人うべ環境コミュニティー

## コロナ・パンデミック下の宇部アイカの活動 宇部アイカ 事務局 竹重 真由美

この2年半コロナ感染症対策で国内の移動だけでなく、海外との相互移動が大きく制限されました。昨年宇部アイカが研修事業をどの様に進めたのか掻い摘んで報告いたします。

### 1. 研修の対象と方法

インドネシア共和国の青年リーダー都市環境管理研修(20人)に対しオンライン会議システム「ZOOM」を利用し実施しました。

### 2. 研修の準備

これまで宇部に2週間滞在しての講義や現場視察、ディスカッションによって研修効果をあげていたが、今回は遠隔講義。1日2時間/15日間で行うので、研修成果を上げるためカリキュラムの構成を再度整理し、新たに講師の方に説明をいただきながら環境現場の動画も作製しました。これが一番大変でした。動画にはインドネシア語への音声翻訳、字幕の翻訳を入れ込みました。またテキストは研修前に研修員に事前共有し、予習をしていただきました。

### 3. 研修の成果

JICA事業としてこれまで宇部アイカが行ってきたカリキュラムに準拠して2週間の講座を実施しました。出席率が一番気になって毎日ハラハラしましたが、結果は

ほぼ100%であったことに安堵を覚え、積極的な質疑応答もあり、研修に関わった講師は大いに満足感を得ることができたと思います。この結果にJICA中国の所長や担当者も驚いておられました。

また研修員からも様々な立場の講師、つまり行政、大学、住民代表、民間企業に所属する講師の方々の講義内容も十分でよく理解でき、満足度も高いとの評価をいただいたので「宇部方式」の真髓が理解されたものと思います。

### 4. オンライン研修の限界

インターネットが世界に定着していることに改めて感じ入りました。しかしバーチャルで世界各国を視覚的に旅行することは可能ですが、やはり旅行に行くのが面白く、記憶に残るでしょう？ 研修も同じだと思います。「来て・見て・話して・触れ合って」



## ときわ公園フリーマーケットの魅力 高橋成次 (ときわ公園フリーマーケット事務局長)

みなさん こんにちは。お元気にお過ごしですか？  
私は、コロナに負けず毎日元気に過ごしております。今回は、私が主催している「ときわ公園フリーマーケット」についてご紹介します。

このイベントは毎月第3日曜日ときわ公園東駐車(湖水ホール横)で開催しており、多い時には約300店舗の出店と約4000人の来場があります。その開催の歴史は約30年前にさかのぼります。当時ガレージセールと称して数店舗の出店と数十名の来場者で始まったと聞いております。それがこれだけの規模になりました。私が引き継いだのは約6年前、前任者から「私はもう疲れたけえ、やってみい〜ね」と声をかけられ、当時は年4回開催を、今では毎月年12回の開催にこぎつけました。ここまでやれる原動力はなんだと思います？ 高橋が元気だから？ だけ(笑)ではないんですよ。その理由となる出来事を2つ紹介します。

1つ目は、夏の7月開催の時の事です。猛暑で、高齢のご婦人が急に倒れ込んでしまいました。私のほうに連絡があり、救急車を呼ぶことになりました。救急隊員がかけつけ、担架に乗せようとしたところ、なかなかそのご婦人は乗ろうとせず、かたくなに「タクシーで帰る」と言い張ります。救急隊員も、私も、周囲の方も説得したのですが言い張ります。「どうして乗らないんですか？」聞いてみたところ、「救急車に乗ると家族にばれるから」と訳のわからない事をおっしゃいます。そのまま聞き続けると、このご婦人、かかりつけの病院の先生から外出を控えるように」と言われていて、毎日が退屈

でしよがなかつたそうです。そこで唯一の楽しみであるこの「ときわ公園フリーマーケット」に家族に内緒でこっそりと来たそうです。それがばれてしまうと、楽しみがなくなってしまうとの事でした。

2つ目は、ある出店者の方との会話で、「私は、手芸が得意で、毎日何かを編んで、それをここで出店するのが生きがいなんよ」、「わしは、盆栽が趣味でのお、その仲間とここで話をするのが楽しみなんじゃ」と。それぞれの出来事や会話で私は、胸がいっぱいになり、前任者の方々のご苦勞に感謝するとともに、継続して開催するのが私の使命と思うようになりました。

皆様も是非、「ときわ公園フリーマーケット」に遊びに来てください。何か面白いことがまっすよ。皆様のますますのご健勝、ご多幸をお祈りして私からのお話を終わりとさせていただきます。

